賜天覽台覽
亞細亞大觀附錄
毎月一回發行
大連市東公園町七〇
發行所 亞細亞寫眞大觀社
電話六二三五番
振替口座七一八番

至聖先師孔子廟

濟南 馬場 春吉

一、沿革

至聖先師孔子廟は曲阜城中稍や西に偏したる正南門内にある。正南門は仰聖門と云ひ、門に明の胡繼宗（泰安の人、字は可泉一に字を世甫とも云ふ、自ら鳥鼠山人と號す、正德の進士、後山東巡撫となる、世宗の時官を辭し）室を築き書を著す辛巳集丙辰集願學編等あり）の題した『萬仞宮牆』の四字がある。即ち闕里の故宅と稱せらるゝもの、史記に『故（ち）と弟子の居りし所の堂内は後世因つて廟とし、孔子の衣冠琴車書を藏む』とあるものこれであつて、水經注卷二十五に曰く、

孔廟は即ち夫子の故宅なり。宅大一頃居る所の堂、後世以て廟と爲す。漢の高祖十三年魯を過ぎ太牢を以て孔子を祀る。秦詩書と經典を燒きて自り淪缺す。漢武帝の時、魯の恭王孔子の舊宅を壞し、尚書春秋論語孝經を得、時人已に復た古文有るを知らず、之を科斗書と謂ふ。漢の時之を秘し、希に見る者有り、時に堂上に金石絲竹の音有り、壞れざるを聞く、廟屋三間夫子西面に在りて東向し、顏母（魯本徵母に作る）中間に在りて南面し、夫人東一間を隔てゝ東向す。夫子の牀前石硯一枝有り、作甚だ朴と云ふ。平生時の物なり。魯人孔子乘る所の車を廟中に藏す。是れ顏路請ふ所の者なり。獻帝の時廟火に遇ひて之を燒く。永平（後漢明帝の年號）中、鍾離意（後漢山陰の人字は子阿）魯相となり、官に到り、私錢萬三千文を出して戶曹孔訴に付して夫子の車を治む。

とあり、廟は魯の哀公十七年（周の靈王四十二年）孔子の故宅に廟を立てしに始まると云ふ（幸魯盛典に據る）後漢の建寧（後漢靈帝の年號）元年四月、河南の史晨（字は伯時）越騎校尉より魯相を拜し、秋孔子の宅を禮し、神主に謁し、自ら俸錢を以て修し、魏文帝黃初二年春正月郡守をして孔子廟に百石吏卒を置いて以て之を守衞せしめ、南宋の文帝元嘉九年冬十二月詔して孔子廟を修し、陳の宣帝の子陳明府（名は叔毅字は子嚴）曲阜令となり、隋の煬帝大業七年廟を修し、唐に入り高宗乾封二年兗州都督霍王元之を修し、玄宗開元六年兗州牧韋元圭及び襄聖侯孔璲之、縣令田思昭等之を修し、大歷八年刺史孟林監縣令裴有象闕里孔子廟門を新たにし、懿宗咸通十年孔溫裕奏請して闕里孔子廟を重修し、宋に入り太宗太平興國八年闕里孔子廟を修し、眞宗天禧二年大理事丞知仙源縣主孔子祠事孔道輔祖廟の卑陋なるを奏して修を加へんことを請ひしにより、轉運使に詔し、官錢を以て之を葺かしめ、孔道輔に命じて工役を監督せしめた。道輔は封禪行殿の餘材を請ひ得て大いに聖廟の舊制を擴げ、廟門三重を建て、次は儀門、次は御賚書樓次は唐宋の碑亭各一、次は杏壇、又壇後に正殿を建て、正殿の後殿、次は杏壇、又壇後に正殿を建て、正殿の後を鄆國夫人（聖配官氏方）殿とし、その殿の東廡を泗水侯（伯子思）殿とし、西廡を沂水侯（伯魚）殿とし、又正殿の西廡門外を齊國公（聖父孔父嘉）殿、其後を魯國太夫人（聖母顏徵在）殿とし、正殿の東廡門外を燕申門、其内を齋廳、廳後を金絲堂と曰ひ、堂後は即ち家廟、左は則ち神厨とし、齋廳よりして東南を客館とし、直北を襲封祀事廳とし、廳後を恩慶堂となし、其東北を雙桂堂とし、凡そ殿庭廊廡を增廣すること三百六十間、結構大いに整ふに至つたのである。神宗元豐元年兗州に詔し、省錢を以て闕里孔子廟を修葺し、五年孔子四十七世の孫孔若升をして監修孔子廟とし、哲宗紹聖三年轉運使に勅して闕里孔子廳を修葺し、金の熙宗皇統二年行臺に命じて錢四萬千貫を撥し、曲阜主簿孔環に委して聖殿を修葺し、官の私かに聖廟地を侵占するを禁じ、孔氏の賦役を免じ、四年行省に命じ、再び錢萬四千五百貫を撥して工役を助け、九年正殿を修し、帝亮正隆二年有司に命じ、羨錢（賦稅の盈餘唐以後巧みに名目を立てゝ以て天子に奉ずるものといふ）を以て孔子廟の兩廡及び齊國公殿を修せしめ、世宗大定十九年衍聖公孔總公褒後孔廟の傾圮せるを嘆じ、愀然として曰く『生れて聖人の後となり、繆りて其職に當り、隘陋の如きを坐視しと寧ろ心に愧ぢざる乎』と、親しく佃戶を率ゐて東蒙山に行き、伐りて材木を取り、鄆國夫人寢殿及び尼防の殿宇廊廡を增修すること五十餘楹あつた。越えて章宗明昌元年春三月帝曰く『昔夫子教を洙泗に設く、天下を有つ者、當に法を取る所、今遺祠久しく葺を加へず、且つ隘陋、聖師の居を以て稱するに足らず』と、乃ち錢七萬六千四百緡を下し、以て之を修し、又詔して揑塑を以て兩廡の畫像に易え、六年孔子廟成り賢儒の像を增塑し、又閣を賜ふて名を奎文と曰ひ、衍聖公以下に三獻法服及び登歌樂一部を賜ふ、蒙古太宗九年衍聖公孔元措に詔して闕里廟子廟を修し、元の世祖至元十九年奉議大夫同知濟寧路總管府事劉侯用同僚と謀り孔子廟垣を修し、成宗大德二年太中大夫濟寧路總管按檀不花廟役を以て任と爲し、首に泉幣萬緡を出し、衆亦皆翕然として之を助け、同五年成るを告げ、規模壯麗を加へ、用ふるところの費緡計るに十萬餘を要したと云ふ。文宗至順三年二月詔して闕里孔子廟を修し、順宗元統二年落成し、宮室の壯、樓閣の崇、周垣繚廡大いに備つた明に至り太祖洪武十一年闕里孔子廟を修し、聖像を補塑し、二十年春太祖工部侍郎秦逵（宣城の人字は文用洪武の進士）に諭して曰く『春秋の時、人紀廢壞す孔子至聖の資を以て六經を刪述し、先王の道をして晦くして復た明らかならしむ。萬世永く功に賴る。焉より大なる莫し。夫れ粟を食すれば則ち樹藝の先を思ひ、帛を衣れば則ち蠶織の始を思ふ。皆從つて出づる所を重んずるなり。孔子の功、天地と並び立つ。故に朕天下に命じて通祀し、以て崇報の意を致す。而して闕里は先師降神の地、廟宇廢して修めず、將た何を以て神祇を安んじ、來世を昭にせん。爾工部其れ即ち修理を爲し、以て朕の懷に副えよ』と以て闕里の孔子廟を修せしめ、成祖永樂九年衍聖公孔彥縉の請に從ひ工部に請ふて囚徒二百三十名を發し、行人雷迅をして來りて修を督せしめ其舊を撤して之を新たにし、十五年工畢り、仁宗洪熙九年工部侍郎周忱（吉水の人、字は恂如永樂の進士）來りて林廟に謁し金絲堂を捐建す。此の工役に蘇州知府況鍾通判邵繼之を助け、衍聖公工を督し、明年八月落成した。堂の高さ二尋有二尺、制度宏雅輪奐一新し、舊觀に卓越した。復た靈星門外に屋を構へ、祇謁更衣所と爲し、名げて更衣亭と云つた、英宗（重祚）天順八年巡撫賈銓（邯鄲の人、字は秉鈞永樂の進士）同藩泉に命じて經營せしめ、知事楊昇兗州知府郭鑑指

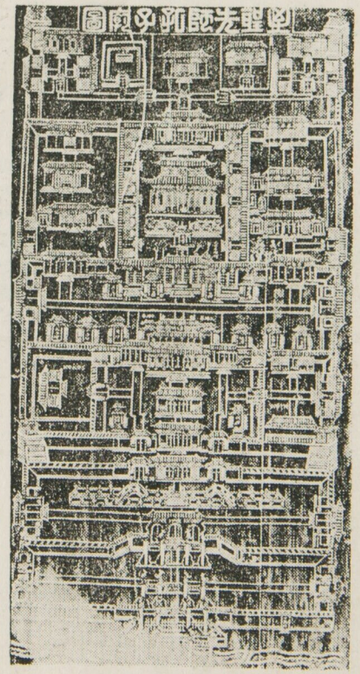
揮鮑詢世職知縣孔公錫を以て工を督せしめ、闕里孔子廟を重修せしめた。憲宗成化四年又重修し、十六年衍聖公孔宏泰の請に從ひ、正殿を增廣して九間餘とし、餘も皆更に新にせんことを詔し、二十三年に至つて始めて成を告げた。孝宗弘治十二年六月十六日夜子（今の十二時夜）の時あまり、雷雨交も作り、火宣聖家廟の東北角より起り、家廟五間齋廊五間東廡二十八間、寢殿七間、伯魚廟三間、子思廟三間、西廡二十八間、大成門五間、手植の檜一株、洪武詔旨碑文並びに樓、永樂御製碑文幷びに樓を燒き、遂に火は大成殿七間東西便門各六間、大成殿東西小便門各三間、寢殿東西兩便門各三間、啓聖殿五間、毓聖侯廟を延燒し、燒毀の殿廡各房一百二十三間の多きに達した。浙江道監察御史余濂孔子廟を修せんことを奏請し、『天下一日も孔子の道無き能はず、人心一日も孔子の教無き能はず、洪いなるかな惟れ祖宗、道を重んじ文を右にし、國都より府州縣に及び學を立て以て其教を闡き、廟を立て以て其祀を隆んにし大和の治を釀成する者百三十年近く意はざる回祿の災、我が孔廟に及び、殿宇門廡夫の碑刻の類と與に蕩然として一空す。正道の厄、此れより甚しきは莫し、痛哭を爲す可く流涕を爲す可し。而して廷臣未だ祈請の辭有るを聞かず、陛下未だ矜恤の典有るを聞かず、續いて襲封衍聖公宏泰の具奏に據り、臣竊かに以爲らく、陛下必ず官を遣して慰祭し、必ず帑を發して賑貸し、必ず材物を料理して以て屋宇を蓋造し緩を容れざる者あらん（中略）今にして之が計を爲さゞれば則ち一時の祀を廢す。若し遷延して以て來歲以至れば又四時の祭を廢す。崇德報功の意固より此に至らず。但だ臣愚の心旦暮の頃、實に顒望に勝えず、依して乞ふ陛下卽ち該部に勅し、迅やかに修理を爲し、以て神靈を妥んじ、以て人心を慰めんことを』と。遂に同年秋八月太常寺少卿李傑を遣はし來りて孔子を慰祭せしめ、又工部に命じて山東巡撫巡按及び布政按察諸臣に下して重建を議せしめ、都御史臣何鑑をして來りて廟工を相度せしめ、十三年春二月闕里孔子廟の工を興し、都御史徐源之を總理し、十七年春正月闕里孔子廟遂に成を告げた。其の人、字は仲山、淑園（長洲新になれる廟貌は巡撫徐源道人と號す、成化の進士）の記に

奎文閣閣七間三簷、再び廟傍に原と毓粹觀德一門有り、以て出入を通ず。廟臺に逼近し、街路短促して趨謁に稱はざるに因り、今門前の少しく北に各東西門一座三間を建て、扁して快覩仰高と曰ふ。又前門並びに二門原と三間に止る。今改めて大門大中門各五間を建て廟前宇後と掩映相稱ふ。橋梁階級煥然として鼎新す。杏壇碑額亦彩繪し但に完し、其大成殿九間、寢殿七間俱に兩簷、大成門家廟啓聖廟啓聖殿金絲詩禮堂各五間、兩廡の連廊共に一百間、啓聖寢殿三間、神廚二十四間、庫房九間、碑亭二座、衍聖公齋宿房十二間、奎文閣大門中門左門右門下、街道坊碑に至る完備せざる無し。規模壯麗工藝精緻……』

とあり、如何に朝廷が其重建に力を竭したかは李東陽の重修闕里廟圖序に

闕里孔廟の重建するや其經費の出す所、竹木の稅、舟船の稅、麥絲の稅及び公帑の藏、其名物の籍、木は則ち之を楚蜀の諸境に市ひ、石は則ち之を鄒泗諸山に取り、甓甎鉛鐵は則ち官之が爲めに陶冶し、丹雘髹綵は則ち之を商に集め、斲削搏埴彫琢繪飾の工は則ち之を京畿及び藩府の良なる者に徵し、夫徵は則ち之を民間に雇ふ。

とあり、用ふる所の銀十五萬二千六百餘兩、更に李東陽は曰ふ『材幹堅厚、構締完整、象設端偉、繪飾華煥悉く其極に臻る。蓋し一代の盛典、天下の大觀此に備はる』と。孔廟の規模此に至つて大いに整ふに至つたのである。然るに武宗正德の頃より山東に群盜起り劉六劉七等の梟賊等正德六年三月曲阜縣城に入り、遂に闕里を犯し、孔子廟又盜の爲めに壞され、翌七年秋七月有司罪緩を出し、並びに輸助を募り、銀三萬五千八百餘兩を得て工を興し、世宗嘉靖元年六月竣工を見た。又穆宗隆慶三年の春、巡撫姜廷頤親しく闕里に詣り、孔廟の頽敝を見、營葺を議し、河道都御史翁太立、巡按御史周詠等之を助け、檄を所司に下し、工を鳩め材を庀ひ、閏六月二十二日に經始し、十一月に至つて、成るを告げ、神宗萬曆二十二年巡撫鄭汝璧巡按連標孔子林廟を重修す、二十九年巡撫黃克纘、闕里孔子廟を重修し、三十六年濟寧兵巡副使王國貞闕里孔子廟の西廡を修し、清に入り、仁宗康熙二十九年內務府郎中皂保を遣はし、來りて闕里孔子廟を修せしめ、三十一年秋八月工を竣り、其冬十月皇三子を遣はして孔子に祭告せしめた。然るに世宗雍正二年六月九日孔子廟大成殿より火を出した。衍聖公孔傳鏗大いに驚き、衆を督して防火につとめたが火勢猛烈を極め、撲滅する能はず、驚惶の下に聖像の牌位、四配十一哲の牌位も奉請したのみで寢殿兩廡大成門、聖祖仁皇帝の御碑東西二亭、啓聖王殿、金絲堂等を延燒した。世宗時に諒闇の中にあつたが報を得て深く之を憂ひ、親しく國學の文廟（北京の）に詣り告文を宣讀し、以て踢躇不安の誠を展べんとし、齋戒すること二日、六月二十七日鹵簿を設けず素服して國學に詣り諸王大臣官員の陪祀する者又何れも常服して事に從つた。又直ちに官を遣はし馳せて闕里に赴き祭告して神靈を慰めしめ、又工部堂員一員を遣はし巡撫と會同し、速やかに材を計り、工を料り日を擇んで工を興さんことを命じ、ついで禮部侍郎王景を遣はし來つて孔子を慰祭せしめ、三年秋八月愈々闕里孔子廟の工を興し、六年山東巡撫岳濬に命じて廟工を董せしめ、七年春正月通政使留保を遣して廟工を督せしめ、又岳濬に命じて留保と同會して工を急がしめ、二月諭して闕里支廟正殿正門は黃の琉璃瓦を用ひ、兩廡は綠の琉璃瓦を用ひ、黃瓦を以て屋脊を鑲砌し、供奉の聖像は內務府より匠人を選んで曲阜に遣はし、敬謹裝塑せしめ、聖祖仁皇帝の御碑亭を重建し、樂器庫を增建し、御書大成殿の匾額を頒ち、御書御製の對聯を頒ちて之を懸け、宣聖廟を至聖廟とし、奎文閣前の棗同門を同文と曰ひ、詩禮堂前の燕申門を承聖門と曰ひ、內府の新製大成殿祭器及び鎭圭及び新製曲柄寶蓋各一、戟二十有四を頒ち多十一月二十八日正殿の上梁を行ひ、八年秋八月聖像成り、編修開泰を遣はし香帛を賚し留保に命じて祭告せしめた。ついで留保廟工竣るを告げ、皇五子を遣はして孔子廟に祭告せしめた、なほ其後幾回かの重修を經て今日に及んだのである。



二、廟制

孔子廟は南に面し、縣城の南卽ち萬仞宮牆の門を入ると、一塀の面牆があり、兩邊に八字形に開いた所謂八字牆が接して居る。又その左右には『官員人等至此下馬』と刻せられた所謂下馬石牌があり、左に德侔天地（三間）右に道冠古今（三間）の牌坊が立ち、前に金聲玉振（三間、胡繼宗書明の嘉靖十六年の所建）があり、縣城の南門と相對して居る。金聲玉振坊の北には櫺星門があり、門外の左右に下馬牌が立つて居る。又下馬牌の北に大和元氣（三間、嘉靖二十三年の所建）坊上の字は曾銑書）石坊、又北に至聖坊（三間）又北に聖時門（五間）その北に玉帶河と稱せらるゝ一水があり其上に三座の石橋が架せられてある。その橋を璧水橋と呼ぶ。橋の東

に快睹門があり、その門外を闕里街と呼び、闕里坊(三間)が街に跨つて立つてゐる。又璧水橋の西に仰高門があり、橋の直北に弘道門(五間)又その北に大中門(五間)又北に同文門(五間)がある。同文門内には漢魏隋唐の古碑が多く保存されである。門の左右に又明代の四碑があり、同文門の北には奎文閣がある。奎文閣は金の明昌二年の所建、金の党懷英の修廟碑記に『廟に層閣あり以て庋書に備ふ。願はくは名を賜ひて諸を其上揭げ以て四方に觀示せんと。詔して奎文を以て之に名け、臣懷英に命じ、其事を記す』とある明の弘治己未(十二年)の火災の後大成殿をはじめ寢殿啓聖殿その他の殿廡は何れも美しく復興されたが奎文閣のみは類燒を免れたため修復を加へなかつた。然るに按察僉事黃繡と云ふ人、舊を撤して之を新にせんことを主張し、衆議皆故物廢す可らずと反對したにかゝはらず、非常な熱心を以てこの閣を新たにしたものだと傳へられてゐる。今閣は七間三簷高さ七丈四尺濶さ九丈四尺五寸深さ五丈五尺九寸、中に雍正御筆の『大成門』『生民未有』『大成殿』の刻石乾隆御製并びに書の『奎文閣贊』雍正帝の長聯等の刻石が收められである。奎文閣は朝廷より下賜された古今の圖書を藏した所であつて、清代には奎文閣典籍と云ふものを置いて之を掌らしめた。又祭祀の折はまづ香幣をこの閣中に供ふる定めである。奎文閣の左右に各々便門があり、左を居仁右を由義と呼ぶ。便門(或は掖門とも云ふ)に接し、左右に値房(執房とも云ふ、祭祀の時執事の居る所)各々五間あり、東の値房の南に接し衍聖公の齋宿所、西の値房の南に接し有司齋宿所がある。ともに祭祀の折齋宿する爲めに建てられたものである。奎文閣の北は大成門(五間)で、大成門の榜額は雍正帝の御筆である。戟二十四(平素は戟を掛ける架のみあり)を列ね、中楹に世宗憲皇帝(雍正)の御書

先覺先知爲萬古倫常立極
至誠至聖與兩間功化同流

との對聯が懸つてゐる。兩掖門があり、左(東)を金聲と云ひ、右(西)を玉振と云ふ。大成殿に登らんとする者は何れもこの掖門から入ることになつてゐる。奎文閣と大成門との間には十三座の美しい碑亭が立ち並んでゐる。碑亭の東は毓粹門(三間)西は觀德門(三間)と云ひ、孔子廟に出入するは何れもこの二門によるのである。毓粹門外に南向せる一門がある。夫子の舊宅門と稱せらるゝものである。なほ東毓粹門から西觀德門に至る間にある十三座の碑亭に收められた碑は左の如くである。

至聖先師孔子廟碑(東より第一亭、乾隆十三年春二月)
御製修建闕里聖廟碑文(東より第二亭、雍正八年十二月十一日)
至聖先師孔子廟碑(東より第三亭、康熙二十五年二月上丁日)
雍正八年十二月十日皇帝遣五子弘晝淳郡王弘曙告祭文(西より第一亭)
重修闕里孔子廟碑(西より第二亭、康熙三十二年)
康熙十五年二月七日皇帝遣宗人府府丞馬汝驥致祭文(西南第一亭)
康熙二十一年三月十六日皇帝遣都察院左副都御史宋文運致祭文(同上)
康熙五十八年春月庚申日皇帝遣經筵講官內閣學士兼禮部侍郎張廷玉致祭文(同上)
乾隆十五年十月初三日皇帝遣鴻臚寺正卿吳應枚致祭文(同上)
乾隆十七年正月十四日皇帝遣鴻臚寺卿儲麟趾致祭文(同上)
戶部尚書張鵬翮恭和聖製甲子冬至幸闕里詩(同上康熙四十九年孟夏月)
御製平定金川告成太學碑文(西南より第二亭乾隆十四年四月吉日)
康熙七年四月十九日皇帝遣光祿寺正卿楊永寧致祭文(同上)
雍正十三年十二月十五日皇帝遣光祿寺卿納爾泰致祭文(同上碑陰は乾隆登極遣祭文―辛夘暮春―である)
大唐贈泰師魯先聖孔宣尼碑(西南より第三亭大唐武德九年十二月二十九日)
魯孔夫子廟碑(同上大唐開元七年十月十五日)
大元重建至聖文宣王之碑(西南より第四亭元貞改元、無年月吉日)
道統聖賢之贊(同上大明嘉靖二年四月)
雍正元年正月皇帝遣通政楊汝穀致祭碑文(東南より第一亭)
雍正八年八月二十七日皇遣經筵講官留保致祭文(同上)
乾隆十四年六月五日皇帝遣太僕寺卿阿蘭泰致祭文(同上)
乾隆十六年正月二十九日皇帝遣通政使富森致祭文(同上)
大清皇帝册封至聖先師孔子五代王碑(東南第二亭雍正元年六月十二日)
大清御祭之碑(同上雍正二年閏四月六日)
大清御祭碑(同上嘉慶元年三月一日)
大金重修至聖文宣王廟之碑(東南より第三亭太平興國八年)
大明重修宣聖碑記(同上弘治元年三月)
大元飭修曲阜宣聖廟碑(東南より第四亭至元五年十一月吉日)

玉振門を入り、右方大成門後面の階下に孔子手植檜と稱する高さ一尺あまりの枯檜があり、方式の石欄と硝子とを以て保護され、旁に『先師手植檜』と刻し旁書に夏曆庚子季夏關西楊光訓題の十數字を旁書した石が立つてゐる。其北に杏壇と稱せらるゝ青絲間金の彩を施し、紅瑠璃瓦を以て葺いた美しい一亭がある。もと廟殿の舊址であつたが、宋の天禧年間孔子四十五代の孫や道輔が祖廟を監修し、殿を北に移したが、其故蹟を毀つを欲せず、莊子漁父の篇に『孔子緇帷の林に遊びて杏壇の上に休坐す、弟子書を讀み孔子弦歌して琴を鼓す』とあるに因り、地を除いて壇を爲り、周圍に杏を植え、名けて杏壇と云つた。亭內に金の承安三年党懷英の篆書各方尺許の杏壇の二大字を刻した碑がある。その碑側には元の元貞元年八月の東原鄧希古の題名が刻せられてある。又『憶昔緇帷、詩書授受與有、桃榮、焉軼轢栁、博厚高明、亦曰悠久、萬世受治杏林何有』の乾隆帝の杏壇贊がある。杏壇の前には金の大定間の所造と傳えらるゝ石爐がある。杏壇の東西は兩廡で、連廊總て一百十間、每廡の高さ二丈三尺、濶さ五十三丈三尺、先賢先儒の神位が配祀されてある。

なほ兩廡の中間には各々櫺門があり、左(東)は崇聖祠に通じ右(西)は啓聖祠に通ずる。杏壇の北は孔子廟の正殿たる大成殿の露臺であつて、露臺は凡て二層石欄を繞らし、臺上甚だ寬く、祀の時樂器を陳列し、佾舞を其處に行ふのである。大成殿の入口の兩楹に

德冠生民溯地闢大開咸尊百出
道隆羣聖統金聲玉振共仰大成

との世宗憲皇帝(雍正)の御書聯があり、入るとすぐの兩楹には

覽世牖民詩書易象春秋永垂道法
出類拔萃河海泰山麟鳳莫喻聖人

との高宗純皇帝(乾隆)の御書聯がある。殿內の中央には至聖孔子の塑像及び神主を奉安した聖

龕があり、その前の兩楹には

氣備四時與天地鬼神日月合其德
敎垂萬世繼堯舜禹湯文武作之師

との高宗純皇帝の御書聯が下り、聖龕の上には『萬世師表』(康熙)『生民未有』(雍正)『與天地參』『時中立極』『化成悠久』(以上乾隆御筆)及び『斯文在此』『聖集大成』『聖協時中』並びに『聖神天縱』(同治帝御筆)『德齊疇載』(咸豐帝)等の御書額が燦然と輝いてゐる。又殿内には至聖龕を中心に七座の神龕あり、四配十二哲の像が左の如く奉安されてある。

至聖龕

至聖先師孔子

東配

復聖顏子　述聖子思子

西配

宗聖曾子　亞聖孟子

東

閔子騫　冉子伯牛　端木子賜　冉子有

西

宰子我　冉子雍　宋子仲

東

伸子由　卜子商　有子若

西

澹臺子滅明　言子偃　師子張

首めて義を倡へて秦を討つべきを以てし、漢に至り魯の共王餘夫子の故宅を毀ち其宮を廣くせんとして壁中より師鮒の藏した古文書を得たと

崇聖祠祀位圖

昌聖王伯夏公　裕聖王祈父公　肇聖王木金父公　詒聖王防叔公　啓聖王叔梁公

先賢顏氏顏回　先賢孔氏孟皮　先賢孔氏顏鳳　先賢曾氏點　先賢孟孫氏

先儒周氏敦頤　先儒程氏顥　先儒蔡氏沈　先儒張氏載　先儒朱氏熹

孔子五代の世系及び配祀の先賢先儒の名は左の如くである。

木金父―祈父―防叔―伯夏―叔梁紇―孔子―孟皮(孔子の兄)

先賢顏氏とは　復聖顏回の父、名は無繇
先賢孔氏とは　孔子の子、名は鯉、字は伯魚
先賢曾氏とは　宗聖曾子の父、名は點字は子哲
先賢孟孫氏とは　亞聖孟子の父、名は激字は公宜
先儒周氏とは　周濂溪の父、名は輔成
先儒程氏とは　二程子の父、名は珦字は伯溫
先儒蔡氏とは　蔡九峯の父、名は元字字は季通
先儒張氏とは　張橫渠の父、字は迪
先儒朱氏とは　朱熹の父、名は松、字は喬年

に在つたものであるが、明の弘治四十八年に此に移し建てたものである。其の西に樂器庫があり其南は啓聖門である、啓聖殿の後は寢殿(三間)で啓聖王夫人の神主を奉安してある。東廡の旁の翼門を東に東ると崇聖祠(五間)で中に雍正二年始めて册封された孔子五代の祖及び孔子の兄並びに四配の父が左圖の如く祀られてある。

崇聖祠の後は乃ち家廟(五間)であつて、廟内中央に始祖考妣左に二世祖考妣右に三世祖考妣又左に中興祖考妣が祀られてある。崇聖祠階下に孔氏世系碑がある。崇聖祠の前に孔子故井があり石欄を以て護り、旁に乾隆の御贊碑があり、又其旁に魯壁の碑がある。即ち孔子八世の孫孔鮒秦の挾書の禁に會ひ、書を壁に藏し、弟騰と共に嵩山に隱れ、後陳勝の師と爲り秦に歸し大識、趨庭傳二至教一學禮學詩』の御書聯などが懸けられてある。金絲堂の前は承聖門(三間)、門を出つれば東は毓粹門、西は觀德門である。以上にて孔子廟の大略を盡したのであるが其廟基の周廣は二華里、餘殿閣廊廡堂齋房舍共に三百十六間、圍むに崇垣を以てし、四隅に角樓並起し、廟中碑碣林立し枚擧に遑なく、實に中國の偉觀であります。

傳へらるところである。其南は詩禮堂(五間)である。伯魚が夫子に詩禮を聞くの所にして夫子の故宅と傳えられ、水經注に『夫子の故宅、大さ一頃、居る所の堂、後世以て廟と爲す。廟屋三間、夫子西階に在つて東向し、顏母中間に在つて南面す、夫人東一間を隔てゝ東向す。前を壽堂と爲す』とあり、もと壽堂と名けられ、夫子の衣冠車服禮器を藏し、諸儒禮を講じ中に飲射したるもの、もとは其制甚だ狹かつたが宋の眞宗闕里に幸し改めてこゝに駐蹕の便殿を建て、後命じてその鴟吻(宮殿屋角の飾)を去つて孔氏延賓齋と爲さしめ、東偏に別に屋を設けて禮器を藏した。現在の禮器庫は即ちこれである。孔氏延賓齋は金人之を金絲堂と云ひ、章宗が孔子廟に謁した時、ここに行幄を作り駐蹕した。明に至り弘治四十八年金絲堂の舊位に改めて詩禮堂を建て、金絲堂を啓聖祠の前に移したのである堂内には『則古稱先』の乾隆帝の御書額や『紹ゝ緒仰ゝ斯文ゝ』の御書聯などが懸けられてある。金絲堂の前は承聖門(三間)、門を出つれば東は毓粹門、西は觀德門である。以上にて孔子廟の大略を盡したのであるが其廟基の周廣は二華里、餘殿閣廊廡堂齋房舍共に三百十六間、圍むに崇垣を以てし、四隅に角樓並起し、廟中碑碣林立し枚擧に遑なく、實に中國の偉觀であります。